

## 「ポリオ・プラス・プログラム」

2012.4.18 高萩 RC ロータリー情報・研修委員会

人類はポリオを地球から撲滅しようとしています。このようなことは歴史上でも 2 度目のことで、最初に地球上から撲滅された病気は、1987 年に撲滅された天然痘です。

世界ポリオ撲滅運動は、RI が中心となり、WHO（世界保健機構）、ユニセフ（国連児童基金）、アメリカ疾病センター（CDC）、各国政府等と提携して進められていますが、今や最終段階に取り掛かり、ポリオの撲滅は目前に迫っています。

ポリオ・プラス・プログラムは、現在 RI とロータリー財団が一番熱心に取り組んでいるプログラムです。1995 年規定審議会の決定に沿って、また 2007 年に再確認されたとおり、ロータリー財団管理委員会と RI 理事会は、世界からポリオがなくなったと証明される日がくるまで、「**ポリオ撲滅が国際ロータリーとロータリー財団の第一目標**」であります。

今回は、ロータリーのポリオ撲滅に対するここまでの活動の歴史を振り返ってみます。

### 1. <3-H プログラムの誕生>

RI はロータリー創立 75 周年を祝って、『3-H プログラム』・・・詳しくは保健、飢餓追放および人間尊重補助金——Health, Hunger and Humanity Program・・・を 1978 年 5 月東京国際大会で発表しました。

「3-H プログラム」は 1978~79 年度に RI でスタートし、1982~83 年度にロータリー財団に引き継がれています。

このプログラムの目的は、国際間の理解、親善及び平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展を図ることにあります。

### 2. <フィリピンで最初のポリオワクチン接種>

1984 年フィリピンの保健統計によると、西太平洋地域所在の 32 か国のなかで、フィリピンはポリオの発生率の 45%、同病気による死亡率の 75%を占めていました。

当時、フィリピン保健省、WHO、ユニセフのいずれも他の伝染病撲滅との戦いに手いっぱい、ポリオ撲滅を実施するための予算がありませんでした。

そこで、1979 年の初め、フィリピンのザビノ・サントスバスタガバナー（1970~71 年度）が、RI に「ポリオ免疫接種事業」についての支援要請をしたところ、3-H プログラムによる最初の大規模免疫接種活動をするのに適切であることが認められました。

1979 年 9 月フィリピンにおいて生後 3 か月から 36 カ月の子ども約 600 万人にたいして、5 年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました。

### 3. <RI の本格的取り組みに先駆けた日本ロータリーの活動>

1981 年 東京麹町 RC の山田ツネさんは、「インドはしか免疫プロジェクト」を監督するためにボランティアとして参加。

1982~83 年度 東京麹町 RC 創立 15 周年記念事業として、山田ツネさん、峯英二さんが中心になり、南インドにポリオワクチンを送り、子ども達をポリオから救う計画を立て、第 258 地区と第 275 地区の賛同を得て、二つの地区の世界社会奉仕 (WCS) プロジェクトに発展しました。

この山田さん等のボランティアたちによる活動から、その経験を活かして、ロータリーはポリオ免疫プロジェクト——1982 年のポリオ 2005——→1985 年のポリオ・プラス・プロジェクト——を発足させたのです。

1986 年、1987 年の国際協議会にグループリーダーとして参加した山田さんが自分の経験を生かしてポリオ免疫計画と具体的な募金方法を詳しく説明しました。(山田さんはインターナショナル・コーディネーター)

#### 4. <ポリオ 2005 の誕生>

1982 年 2 月 RI 理事会で「2005 年に RI の 100 周年祭を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」ことを決議しました。

1984~85 年度のカルロス・カンセコ RI 会長はこの目標達成の方法をはかる「ポリオ 2005」委員会を任命。

1984 年 11 月の理事会で同委員会からポリオ撲滅に関する報告を受理、全世界規模での RI のポリオ撲滅活動が動き出しました。

#### 5. <ポリオ・プラス・プログラム>

1985 年 2 月ロータリー設立 80 周年に当たり、RI はポリオ・プラス・プログラムを発表。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の五つの病気を指し、ポリオだけでなく、これらの病気も含め予防接種を実施することになり、ポリオ撲滅活動からポリオ・プラス・プログラムと改称された。

1986 年 7 月から委員会が立ち上がり、ポリオ・プラス・プログラムは二つの部門に分かれました。(免疫接種活動を担当する部門と、これに要するポリオ経口ワクチン調達資金を募集する部門)

1979 年ロータリーがポリオ撲滅に乗り出してから、ロータリアンはお金を集めていただけでなく、多くのロータリアンが道路もないような僻地にまで分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子供たちに届けて投与する活動もしてきましたし、紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、また宗教上の理由でワクチン投与を拒む人々を説得したりと様々な活動をしてきました。

#### 6. <目標を上回る募金の達成>

RI は 1986 年 7 月から向こう 5 年間の継続事業として、1 億 2 千万ドル (当時の日本円で 200 億円) の募金キャンペーンを実施し、日本では、募金総額 40 億円を最終目標として、1986 年 7 月から日本ポリオ・プラス委員会により 5 年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まり、1991 年 6 月までに目標をはるかに超える 2 億 1 千 7 百万ドルを達成し、内日本は 49 億円の寄付を集めることが出来ました。

## 7. <ポリオの減少>

ロータリー財団では、WHO や UNICEF と綿密に連携し、集まった尊い資金をもとに、世界各地でポリオワクチンの投与を実施しています。しかしながら、ポリオワクチンの投与は、やさしことではありません。宗教や紛争などの要因により、思うように事が運ばない場合も多く、ポリオワクチンを届けようとして、紛争に巻き込まれて亡くなった例もあります。

(ポリオ発症例の減少)

1981年	ポリオ症例	660,520 症例	
1985年	〃	352,510 症例	ポリオ・プラス・プログラム開始
1996年	〃	41,110 症例	

1988年には毎日1,000人もの子どもがポリオに感染していましたが、2011年の感染報告はわずか650件となりました。ポリオの発症率は99%減少し、感染国数も125か国からわずか4か国（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）にまで減少しました。

インドの発症例についてはみると、2012年1月13日までの一年間ではポリオ無発症の状態を維持（2010年一年間で42件）しています。常在国リストからインドは外される可能性が高くなっています。

しかし残りの1%の地域は、他の地域と異なり、予防接種プログラムの障害となる問題点（具体的には劣悪な生活衛生環境、栄養状態によるワクチンの有効性の低下、過疎地へのアクセスの欠如、予防接種に対する理解の欠如、紛争地帯など）があり、ワクチン投与するのに困難な地域が多く、これ迄以上に多くの資金を必要としています。さらに、4か国からポリオが無くなった隣接国に再流入する可能性があります。

RIでは、2005年2月までにポリオ撲滅を実現しようとして、2002年に新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」展開し、8千万米ドルの寄付目標を設定し、2003年6月までに1億1千万ドルを集めました。——常在国4か国までに圧縮しましたが、ポリオ撲滅は不可能でした。

(ポリオ撲滅宣言をした地域)

1994年 北・中・南米地域で最初のポリオ絶滅宣言

2000年 WHOにより西大西洋地域に2番目のポリオ絶滅宣言——西太平洋地域ポリオ根絶。京都会議での「京都宣言」として発表されたので、日本のロータリアンの中には、ポリオは終わったとの誤解が生まれたようです。

2002年 ヨーロッパ地域でのポリオ撲滅宣言

(参考：常在国での2010年発生はアフガニスタン25件、ナイジェリア21件、パキスタン144件、非常在国では2010年アンゴラ33件、コンゴ共和国384件、コンゴ民主共和国100件、タジキスタン458件、チャド26件、セネガル18件、ロシア14件他で、常在国からの感染か、撲滅した地域での再発の恐れがあると言われています。中国で2011年に10年ぶりに少数ながらポリオの新たな感染

者が確認されましたが、このウイルスはパキスタンからのものでした。)

## 8. <ポリオ・プラス・プログラムの目的に関する声明>

1990年6月ロータリー財団管理委員会はポリオ・プラス・プログラムの目的に関する声明を採択しました。To dream a new dream に始まるこの声明は、ポリオを単に制圧するのではなく、根絶するという新しい夢を持って引き続き援助を必要とする諸国にワクチンを供給すると述べ、国際ロータリーは2005年には100周年記念とポリオのない世界、polio-free world という二重の喜びを味わうことになるとしていました。

(残念ながら未達成に終わり、今も撲滅運動は続いています)

## 9. <日本のロータリークラブの活動>

1994年、日本のロータリークラブは非ロータリー国である中国で、ポリオワクチン一斉投与を実施しました。

1995年、第2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)はWCSの活動の一環としてカンボジアでワクチンの一斉投与を行いました。

同地区ではこの活動を皮切りに、幼児たちのためのワクチン投与を、1996年モンゴルで、1997年ネパールで、1998年ラオスで、1999年ベトナムで、2000年中国・ミャンマーで、2001年バヌアツで、2002年ミャンマーで、2003年カンボジアでと9年間にわたって活動を続けてきました。

その後、第2640地区、第2830地区(青森)など、日本の多くの地区やロータリアンがポリオワクチン投与のために多くの国々へ出かけていきました。

## 10. <1988年~2007年ポリオ撲滅への資金投入額>

総額	41億米ドル	支援	拠出内訳	G8諸国	20億ドル(48%)
				その他の国々	3億ドル(8%)
				ロータリー	6.6億ドル(16%)

### <参考>

1985年~2009年の公共部門の上位寄付者

アメリカ 14.5億ドル

イギリス 7.3億ドル

日本 3.3億ドル

ドイツ 2.2億ドル

カナダ、オランダ、ノルウェーとつづきます

(上記の資金投入総額と参考の金額は期間が異なっておりますので、数字は一致しません)

## 11. <ポリオ撲滅によりもたらされた恩恵>——「ロータリーの友」2011年11月号から

世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)が開始された1988年以来

全世界のポリオ感染数の減少 99%

ポリオ常在国 125か国 ⇒ 4か国

毎日ポリオにより麻痺障害を患う子供の数の変化 1,000人 ⇒ 3人

全世界で投入した資金額 US \$ 82億ドル以上  
 (上記 10 の資金投入額とは期間が異なっておりますので金額が違います)

全世界でポリオワクチン投与に従事したボランティアの数	2千万人
〃 予防接種を受けた子供の数	25億人
〃 予防接種を受けなかったら障害を患っていた人数 (予想)	5百万人
〃 ポリオワクチンと共に投与されたビタミン剤の おかげで命が救われた人の数	150万人

## 12. <ロータリーの2億ドルチャレンジ>

2007年1月「ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団」からポリオ撲滅のために1億ドルが、2009年1月には2億5千5百万ドルの計3億5千5百万ドルのチャレンジ補助金(資金を提供する条件として、相手側からもそれと同等または一定額の寄付を求める補助金)がロータリーに寄付されました。

これにちやえて2012年6月まで「ロータリーの2億ドルのチャレンジ」を執行中で、**2012年1月17日までに募金額2億260万ドルを集め、募金の目標を達成しました。**

2012年1月17日の国際協議会で、「ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団」は、期日より早く2億ドルの目標の達成をしたロータリーの努力に対し、さらに5千万ドルのロータリー財団への追加補助金を発表しました。(ゲイツ財団の累計額4億5百万ドル)

ロータリーは、世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI——WHO、RI、ユニセフ、米国疾病予防管理センターが協同して主導している活動です)における予防接種活動、ポリオウイルスの監視活動、地域社会の教育と広報活動を直接支援するために、この資金を投入する計画です。また、ポリオウイルスの拡大阻止のための研究支援にも充てられます。

## 13. <日本のRCの2億ドルチャレンジでのポリオ撲滅の募金活動の主なケース>

——ポリオ撲滅のための個人寄付に合わせて、RCとしての活動の事例——

- \* 第2770地区 ポリオ撲滅チャリティコンサート「明治大学マンドリン倶楽部」  
 13万円の募金
- \* 鈴鹿RC 鈴鹿市の龍光寺で開催された「寝釈迦祭り」ポリオ撲滅の募金活動 12万円
- \* 北本RC 北本市の「きたもと福祉祭り」にチャリティバザーを実施し収益を募金
- \* 第2500地区第3分区 ポリオ撲滅チャリティゴルフコンペ 5.7万円の募金
- \* 神崎RC ポリオ撲滅チャリティゴルフコンペ、併せてゲストのプロゴルファーやプロ野球選手のお宝チャリティオークションを行い多額の浄財を寄付
- \* 熊本城東RC 「風流街浪漫フェスタ」ボーイスカウトの子供たちとポリオ撲滅募金活動
- \* 浦和東RC 「咲いたまつり」でポリオ撲滅支援バザーに400点を販売 30万円の募金
- \* 湯河原南RC ペットボトルのキャップを集めてポリオ撲滅資金
- \* 第2680地区 ポリオをなくそうチャリティコンサート

等々

海外では、5万4千ドル集めた映画上映会、5万2千ドル集めたファッションショウ、3万8千ドル集めたキリマンジャロ登山チャレンジなどがあります。

## 14. 参考：

### <ポリオワクチンについて>

#### ①ポリオワクチンの種類

- \* 生ワクチン（OPV）——ウイルスは生きているものの毒性を弱めたワクチン
- \* 不活化ワクチン（IPV）——ウイルスを化学処理して感染性や病原性をなくしたワクチン

#### ②日本では、3種類（1型、2型、3型）のウイルスを弱毒化・混合した経口生ワクチンで予防接種しているのに対し、世界の多くの国では不活化ワクチンに移行している。

経口生ワクチンは、日本と北朝鮮、モンゴル、中東、アフリカ、太平洋諸島、中南米のみで、いわゆる先進国では日本だけである。

#### ③経口生ワクチンの利点と問題点

- （利点） 定期予防接種のため、公費負担——無料で接種できる  
経口投与のため、注射による痛みや副反応がない  
万が一接種に伴い健康被害が生じた場合、国が認定すれば、各種補償が受けられる

- （問題点） 下痢の際には接種が出来ない  
ワクチン関連麻痺性ポリオの危険がある  
免疫に問題がある人に接種できない

生ワクチンは、ウイルスの毒性を弱めたものを使っているため、ワクチンからポリオに感染する危険性があります。これをワクチン関連麻痺性ポリオ（VAPP）と言います。

日本で最近見られるポリオは、全てこのケースであり、平成20年末現在で138名です。

日本におけるVAPPの危険度は200万接種当たり一人という報告もあります。WHOの報告によれば、生ワクチンにより出生100万人当たり2～4人が発生するといわれています。

アメリカでは、経口生ワクチンよると240万人に一人のポリオ発生がみられたことから、2000年1月に移行期を経てすべて不活化ワクチン化した。

#### ④不活化ワクチンの利点と問題点

- （利点） ワクチン関連麻痺性ポリオの危険がない  
免疫に問題があっても、接種可能なことが多い

- （問題点） 定期予防接種にならないため、接種は有料（4回接種で2万円）  
日本では未承認のため、万が一健康被害が生じた場合各種補償が受けられない（日本で承認され使えるようになるのには、あと2～3年かかりそうです）  
注射のため痛みや副作用の可能性がある